

災害の教訓を風化させないための問題提起

あなたは震災のときの気持ち思い出せますか？

減災対策井戸端会議 (ワークショップ)の内容

- ①研究責任者の研究結果報告から、被災発生時に必要な救護活動や避難所の暮らし、健康危機状態のイメージを持つ
- ②被災直後の共助の地域活動、地域組織の「あるべき姿」を共有する
- ③その実現に必要な資源、地域づくり活動について意見を出し合う
- ④被災直後から10日後頃までの救命活動を中心とする時期から避難所生活を運営するまでの「時間軸」と「危機の発生状況の変化」を意識
- ⑤グループをグラフィック化(可視化)し成果を共有

過去の記憶に埋没させない
震災の記憶!

講演: 東日本大震災被災直後の混乱期におこった救命医療の実態
一津波・原発災害と闘った南相馬の10日間
講師: 安城聖生病院 脳血管内治療部長
(元)南相馬市立総合病院
医師: 太田圭祐先生

大切なひとや自分たちの地域をどう守るか!?

日時 平成29年1月12日(木) 午後7時~9時(受付6時30分~)

会場 静岡県牧之原市 総合健康福祉センター さざんか2階会議室
(静岡県牧之原市静波951-1)

講師紹介
太田圭祐医師
東日本の震災が思いもよらない原爆下
同様に被災者仲間、「死生観」
を共有し、被災者仲間と共闘
された。被災者仲間から、30分
月経系した経験も経験から30分
いた30分11日、震災が起きた。

参加費
お問い合わせ
0548-23-0024
牧之原市健康づくり課
ワークショップの参加を希望される方は、お名前、ご住所、電話番号をお知らせください。
2016年 聖隷クリストファー大学 地域貢献事業部内開催

過去に類を見ない、未曾有の被害をもたらした「東日本大震災」から6年が経過し、人の暮らしが復興に向かうと共に、震災で得た教訓が風化しつつある。

主体的に行っていくための
地域づくり
災害時に住民同士が救護活動を



この研究から得たもの
大規模災害を乗り越えるためには、災害の危機感を住民一人ひとりが認識し、地域のつながりを強めていくこととによって
減災は可能!

震災の記憶を 過去に埋没させないための 講演会を開催!



災害医療講演会(1月12日)

極限状態の医療現場の実状を知り「あたり前のように助けてくれる」と思っていた行政や病院の機能が、実際に災害が起こると、機能不全状況になる事を初めて知った。「自分達で協力してなんとかするしかないと思った」⇒**危機意識を再認識**

課題
行政の力だけでは
市民の命は守りきれない!

詳細はコチラ
https://www.city.makinohara.shizuoka.jp/bg/kosodate_kyoiku/post-219.html



そこで・・・住民を対象にワークショップを開催

減災対策のための地域づくりを住民同士が救護活動を主体的に行っていくためにどのようにおこなっていく必要があるか、住民自ら災害発生時の支援活動について自分たち自身で考え、見出し、関係者とともに共同していくことができるのかの方向性を探る



減災井戸端会議(2月10日)

研究者)
若杉早苗¹⁾、古川馨子²⁾、山口舞²⁾、鈴木郁美²⁾
池山敦³⁾、鈴木知代¹⁾、仲村秀子¹⁾、伊藤純子¹⁾
川村佐和子¹⁾
¹⁾聖隷クリストファー大学、²⁾牧之原市役所健康づくり課
³⁾皇學館大学